

## トイレから多様性を考える

2026年5月14日@国際医療福祉大学大学院 乃木坂スクール

東洋大学人間科学総合研究所 客員研究員

一級建築士・工学博士 川内美彦

### ゆきさんとのご縁とユニバーサル・デザインとトイレ

1990年にアメリカでADA(障害のあるアメリカ人に関する法律)成立。

アメリカから講師を招いて、ADAの考え方を伝える全国講演ツアーを主催。

「バリア・フル・ニッポン」(現代書館1996年11月)

ゆきさんはこの本を「天声人語」で取り上げるよう執筆者に紹介。

90年代に入って日本にもバリアフリーが広まり始めた。

1995年ころからユニバーサル・デザインの考え方も知られ始めた。

Ronald Mace

すべての人々に対し、その年齢や能力の違いに関わらず、(大きな)改造をすることなく、また特殊なものでもなく、可能な限り最大限に使いやすい製品や環境のデザイン

なぜ国際シンボルマークが必要か?

バリアフリー → 障害のある人のために世の中にシンボルマークを増やす活動

ユニバーサル → シンボルマークがなくてもちゃんと使える環境を作ろう

目指すのは「あたりまえに使えるまち」なのに、高齢の人や障害のある人に関係すると「やさしい」になる。

それは高齢の人や障害のある人とそれ以外の人に違う尺度を当てていることでは?

ユニバーサル・デザインは「やり方」ではない。

人権、尊厳を根本にした「考え方」。

2000年ころの車いす対応トイレ：常に不適正利用をどう防ぐかという問題。

ただ、何が不適正かについては明確ではない。

カギをかけるのは不便が多い。「どなたでもお使いください」にして、みんなで監視。

東京都は「だれでもトイレ」

### 「どなたでも」への批判と機能分散

2000年交通バリアフリー法で公共交通施設での車いす対応トイレを義務化。

2001年公共交通ガイドラインで、多機能トイレに乳幼児用設備やオストメイト用設備を設置。

車いす使用者から不満。ユニバーサル・デザインのせいだ!

国の進める機能分散。多機能トイレから乳幼児用設備とオストメイト用設備を外に出す。

排泄補助具使用者。大腸や前立腺等の病気で尿漏れ、便漏れが起こり、下着やパッドを取りかえる必要がある人がいる。

車いす対応トイレに既得権的な考え方をもち、他の人に使わせないように排除すべきだと考える車いす使用者もいる。

### 「紛れ」の必要な人たち

トランスジェンダー等、オストメイト、排泄補助具使用者の中には、自分の事情を周りに知られたくない（カミングアウトできない）人がいる。周りからの差別を怖れている。

「紛れ」に頼ってトイレを使っている人がいる。

機能分散はその安心できる場を奪ってしまう。

### トランスジェンダーのトイレ

トランスジェンダーは身体の性と自認する性が異なる人。

男女共用トイレは「男性」と「女性」に二分したうえで、両方が使えるという考え方。

オールジェンダートイレは、二分するのではなく、どんな性自認でも OK という考え方。

便房が複数あって、いろいろな人が使うから「紛れ」ることができる。

大阪万博の終盤では観客数が多くなり、オールジェンダートイレを女性用トイレに変更した。

オールジェンダートイレを使うことに抵抗感を持つ女性が少なくないことを露呈した。

「紛れ」はなぜ必要なのか。なぜ堂々とカミングアウトできないのか。

差別があるから。カミングアウトしたら、自分に不利になるとわかっているから。

### 車椅子使用者用便房とオストメイト用設備と身体障害者補助犬

2024 年、国交省はバリアフリー法の政令を改正。

車椅子使用者用便房について、原則「各階に1以上」にした。

政令が改正されても、オストメイトの状況は改善しない。

トイレの不足には2種類ある。「量の不足」と「配置の不足」。

どの差別も、無知、無理解、偏見から生まれる。

社会が正しく理解すること、本人が心配せずにカミングアウトできる社会になることが必要。

### 「紛れ」られない人たち

知的障害、発達障害の方の中にはトイレに介助のいる人もいる。

男女が多機能トイレから出てきたら怪しまれる。時には罵声も浴びせられる。

身体障害者補助犬連れは「何で犬に使わせるんだ」と非難される。

### 差別のない社会に

機能分散では問題解決はできない。

トイレへのニーズの多様さと、利用における ~~ルール~~ ルールをきちんと社会に伝える必要がある。

これは障害のある人に対しても同じ。既得権的な考え方をもち、他者の事情を理解しようとしないうる車いす使用者には、きちんと理解してもらわなければならない。